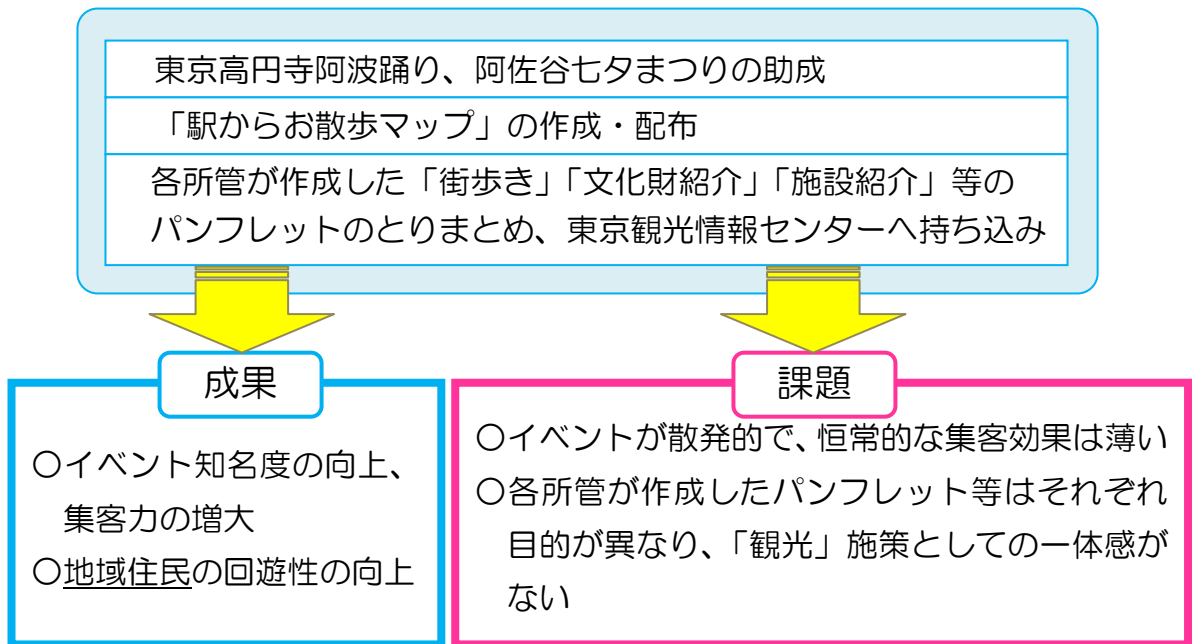


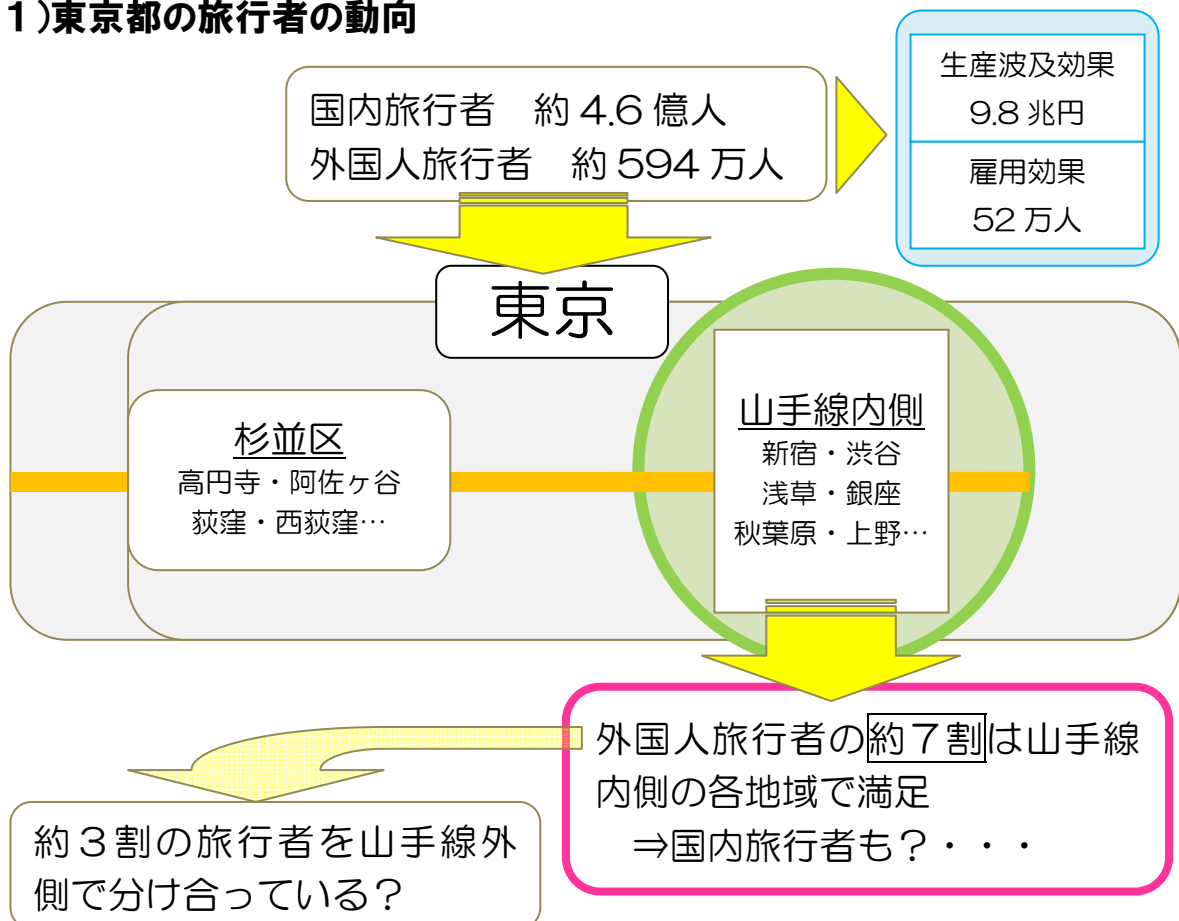
杉並区の観光施策

1 杉並区これまでの取組み



2 杉並区を取り巻く「観光」の現状

(1) 東京都の旅行者の動向



(2) 東京都の観光のテーマ

東京都の観光テーマ

「建築」「能・歌舞伎」「遊園地・プール」
「日本庭園・盆栽」「美術館・博物館」「温泉」
「ハイテク」「築地」「両国体育館」「文化体験」
【東京都公式観光サイト GO TOKYO から】

「第一級」の観光資源が「集積」している山手線内と同一のテーマで競合することは非常に困難

(3) 中野区の動向

警察大学校等跡地を含む中野駅前の大規模な再開発が進行中

① 大企業本社等の移転

⇒ 昼間人口の3万人増 (推定)

② 大学及び関連施設の移転

⇒ 中野・杉並区境に 留学生・観光系学生が流入

- ・早稲田大学：国際コミュニケーションプラザ（平成26年春）
- ・帝京平成大学：現代ライフ学部ほか（平成25年春）
- ・明治大学：国際日本学部ほか（平成25年春）

行政

民間

都市観光ビジョンの策定

中野区観光協会の設立

「地場の魅力の再発見」と「発信力の強化」

区内醸造の「みそ」による商品開発

サブカルチャー等、コンテンツの活用

「つけ麺発祥地」をいかしたイベント企画

「中野区ナイトマップ」の作成と多言語化

3 杉並区の今後の観光事業の例示

①杉並らしさの構築・再発見による観光資源の質的向上 ⇒山手線内側とは異なる視点

大衆料理：「SUSHI」に変わる和食文化の集約

例) 居酒屋、焼き鳥、ラーメン、そば、定食

アングラ文化：既に集積されているコンテンツの支援・活用

例) アニメ、演劇、ジャズ・ロック、映画

個性的な店舗：都心に優位性を持つ個性的な店舗の集積

例) 古着、カフェ・喫茶、骨董、古本、作家物雑貨

②隣接地域との連携による観光資源の量的増大 ⇒いわゆる「中央線文化圏」の再形成

○中野区（例：観光協会）、武蔵野市（例：観光推進機構）等との共同事業支援

○隣接地域一体のガイドブック等の作成、IT発信事業、連携イベント等の支援

杉並区・中野区両商店会連合会共同による「広域支援型商店街事業（都助成）」について、現在、側面支援している。

③山手線内側の観光ポイントからの旅行者の誘引 ⇒山手線内側の集客力を活用

○東京観光情報センターへの情報提供

○集客力のある観光スポットとの関連性強化

例) アニメ・漫画

秋葉原（集客）→→→ 中野（まんだらけ等へ誘引）→→→

→荻窪（アニメミュージアム等へ誘引）→→→三鷹（ジブリ美術館等へ誘引）

④インバウンド強化による観光マーケットの拡大 ⇒外国人旅行者を視野

ガイドブック・パンフレット・ホームページの多言語化（例：英仏中韓）

主要外国語ガイドブックへの掲載働きかけ（例：ロンリープラネット）

類似の他地域・地方都市との相互情報発信（例：下北沢、大阪難波、九州博多）

中央線紹介本の多言語化（例：高円寺東京新女子街、みんなの中央線案内）